

FP Topics

= 金融経済の基礎知識 =

2024年5月号

= One's impressions =

久方ぶりに日本経済はゆるやかな回復傾向にあるようです。長期間継続したデフレを脱却し、インフレへとシフトしています。昨今の物価上昇に家庭の収入が追いつかず、大変な思いをされているご家庭も多いと思います。政府が推奨している賃上げも、日本国で多くの割合を占める中小零細企業では、その基礎体力が不足しているようです。

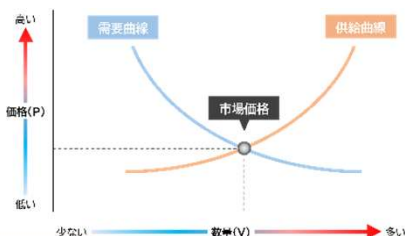
実感がわからない株式相場の高騰。円安が輸入物価の上昇を招いています。そんなこんなの情報がマスコミに溢れている今日この頃ですが、分かるようでわからないのが、金融経済用語ではないでしょうか。今月は、その分かるようでよくわからない、金融経済用語を解説してみたいと思います。

= デフレとインフレ =

デフレ (デフレーション) とは、物価 (物の価値) が下落し、貨幣価値 (お金の価値) が上昇することをいいます。市中における資金需要 (新規の投資や事業拡大、設備投資、消費などのお金の流通) が減少して、市中金利が低下する傾向がみられます。

我が国日本では、バブル崩壊後の1990年代後半からデフレスパイラルという現象に陥りました。**デフレスパイラル**とは、物価の下落が企業収益や生産の縮小を引き起こし、それがさらに物価の下落を招くという景気後退の悪循環を指します。

- 物価下落 → 企業の売り上げ減少
- 企業の利益減少 → 設備投資や雇用の調整
- 個人消費の減少 → 物価がさらに下落



インフレ (インフレーション) とは、物価 (物の価値) が上昇し、貨幣価値 (お金の価値) が下落することをいいます。市中における資金需要が増大して、市中金利が上昇する傾向がみられます。為替の円安・外貨高は、輸入物価の上昇を招き、インフレの要因となります。インフレの局面では、預貯金より株式や投資信託などへの投資がインフレへの備えとして有効と考えられています。

景気の活性化: インフレが進行すると、モノやサービスへの需要が増加し、企業の売上が増えます。これにより、従業員の給料が上がったり、社会全体の経済活動が活発化します。

債務者にとって有利: 借金をしている人にとっては、お金を借りた当初よりお金の価値が下がるため、返済が楽になります。

= 日本銀行の金融政策 =

日本銀行はデフレ経済からの脱却のため、思い切った金融政策を行ってきました。長く続いたゼロ金利政策ですが、ようやく日本にも金利のある世界が戻ってきました。日本銀行の金融政策とは、以下の2つが主な政策です。

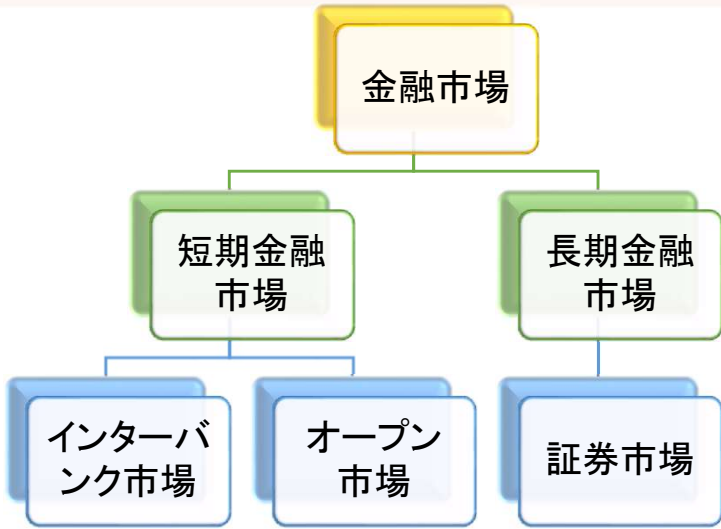
金融市場操作: 短期金融市場への資金供給量や金利を調整すること。

売りオペレーションは日本銀行が保有する有価証券等を民間金融機関に売却し、市場の資金 (通貨量) を減少させ市場金利を上昇させる政策です。

買いオペレーションは金融機関の所有する有価証券等の買入れを行い、市場の資金 (通貨量) を増大して市場金利を低下させる政策です。



預金準備率操作：金融機関は一定割合（預金準備率）の預金量を日銀に預ける義務があります。預金準備率操作は、預金準備率の引き上げで市場の資金量を減少させたり（金利は上昇）、預金準備率の引き下げで市場の資金を増大（金利は低下）させたりする政策です。



- 金融市場：**お金の貸し借りをを行う市場のこと。
- 短期金融市場：**1年未満の取引期間で資金を調達運用する市場の総称。
- 長期金融市場：**1年以上の取引期間で資金を調達運用する市場の総称。
- インターバンク市場：**金融機関のみ参加できる市場。
- オープン市場：**一般企業も参加できる市場。
- 証券市場：**債券・株式市場。

＝経済指標の基本用語＝

国内総生産 (GDP)	一定期間内に国内で生産された財やサービスの付加価値の総額。日本企業でも外国で生産された付加価値は含まない。 <u>物価変動を加味しないものが名目GDP、物価変動を考慮した（取り除いた）ものが実質GDP。</u> GDPの変動（増加率）を経済成長率という。
景気動向指数	生産、雇用などの景気の現状把握及び将来予測に資するために作成された統合的な景気指標。
日銀短観	全国企業短期経済観測調査。約1万社の企業を対象に経済状況や先行きの見通しについて、日本銀行が年4回実施するアンケート調査。
業況判断DI	日銀短観で公表される企業の景況感を表す指数。業況について「良い」と回答した企業の割合から、「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値。下落は株価下落の兆候。
消費者物価指数	一般消費者（家計）が購入する商品やサービスの価格変動を表した指数。
企業物価指数	企業間取引や貿易取引における商品価格の変動を表した指数。国際商品市況や外国為替相場の影響を受けやすい。
マネーストック	金融部門から経済全体に供給されている通貨の総量。一般法人、個人、地方公共団体が保有する通貨量の残高を集計したもの。

今月の山登りでは、“大峯奥駈道敗退の記”終了から、新たに山歩きの魅力やその楽しみ方などについても書いてみたいと考えています。

山歩きは手軽で、その運動強度も自分自身でコントロールできます。趣味として入り易いのかなと思うのです。基本的には歩くだけです。運動神経はほぼ必要ないと思います。しかし、実際ある程度の距離を歩いてみると、歩くという行為の奥深さがよく分かります。

山を歩いている登山者を見て、あーこの人は沢山歩いている人だな～というのは一目で分かります。そのバランスといいますが、歩く佇まいに凄みを感じるのです。そんなことはどうでも良いのですが、山歩きは老若男女問わず、万人が楽しめる趣味だと思います。

里山のハイキングからヒマラヤに代表される高所登山まで自分自身のレベルにあわせて幅広く楽しむことができます。山歩きの体力は60歳頃まで落ちないということも聞いたことがあります。実際に六甲山で、80歳を超えているであろうお爺さんに、登りでスタスタおいていかれた記憶があります。

おそらく同じコースを、ほぼ毎日のように歩いてらっしゃるのでしょうか。尋常ではないスピードでした。後日、六甲山ロックガーデンのバリエーションルート^①の枯滝の下で昼食をとっていたときです。そのお爺さんが現れ、リュックからおもむろにヘルメットを取り出し、その枯滝を登り始めたのです。絶対にロープによる確保が必要な高さです。落ちたらただではすみません。昔取った杵柄なのか？高名な登山家だったのかも知れません💦💦💦

